

仁兵衛堰物語



【ナレーション】
この作品は、岩手県北上市立更木小学校の平成11年度卒業生とその父母による、卒業記念製作のお芝居を紙芝居にしたものです。

仁兵衛堰物語



【ナレーション】
むかしむかし、更木村では山から流れてくる少ない水で米を作っていました。

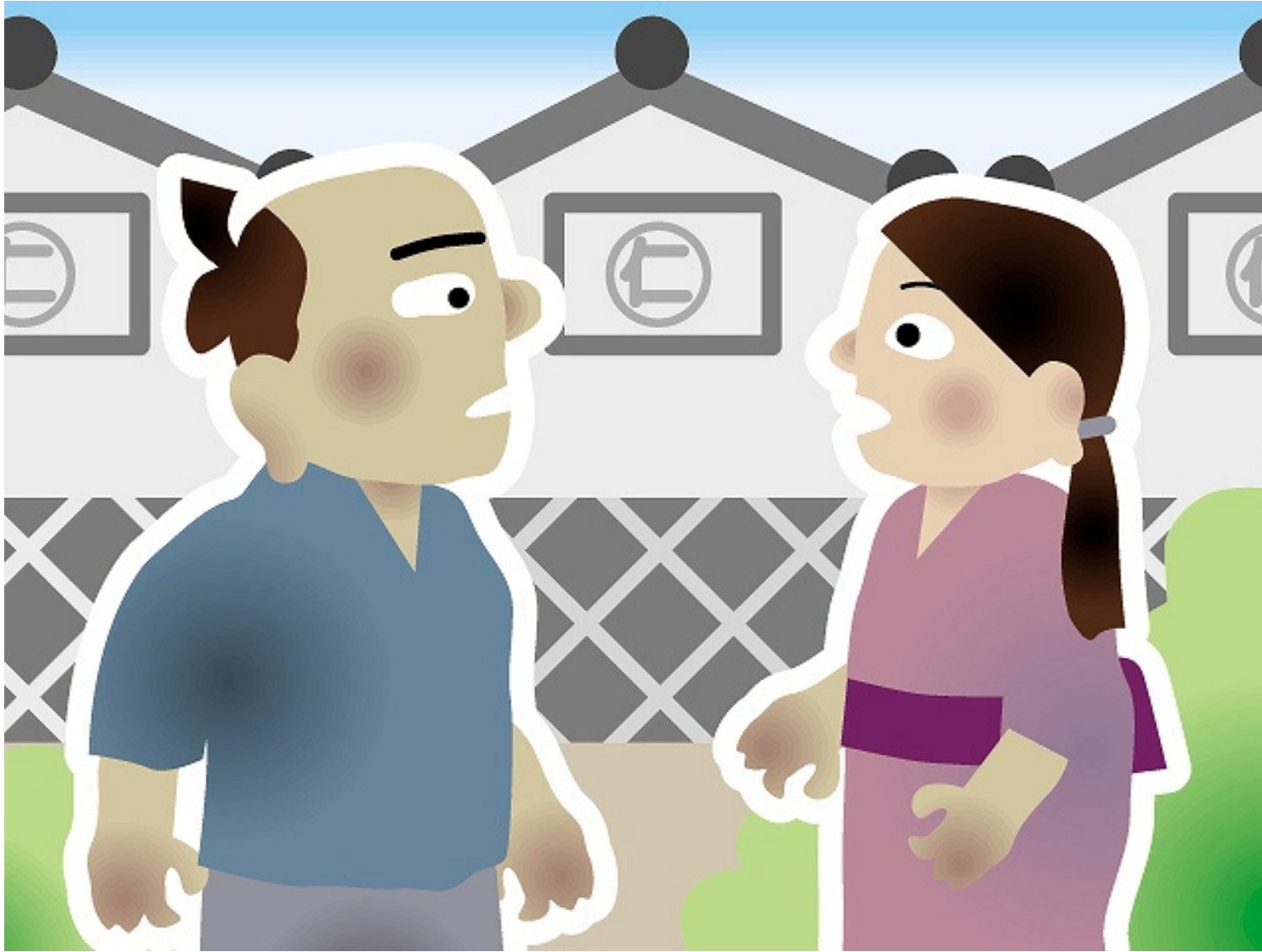
日照りが続くと水は枯れてしまいます。
また、寒い夏は冷たい水で稲の育ちが遅くない、村人はみんな苦勞していました。

【仁兵衛】
「今年もさっぱり米は取れそうもねえなあ。」

【村人A】
「仁兵衛さん、まだ大勢病氣になって死んでしまうよお。」

【仁兵衛】
「うーん、なにか、おらにできることがねーべが。」

仁兵衛堰物語



【ナレーション】
仁兵衛の家は村いちばんのお金持ちです。
家に帰ると仁兵衛は妻を呼びました。

【仁兵衛】
「なあ、毎年みんな水に困ってる。
村のために、蔵さある物売って堰を作りでんだが。」

【妻】
「ええっ！ なにもあんだが、そったなごとしねぼってや。」

【仁兵衛】
「うちの財産も、更木村のために使えば、きっとご先祖様もよろこんでける。
わがってけろ。」

【ナレーション】
はじめは反対した妻も、いっしょうけんめいな仁兵衛の気持ちに打たれました。

【妻】
「わがった。
おらも、精一杯手伝うがら。」

仁兵衛堰物語



【ナレーション】
次に仁兵衛は、村人と相談を始めました。

【仁兵衛】
「金は、おらがなんとかがすっから、みなさんには人を集めてほしいのだす。」

【村人A】
「そいや、ありがでえ話だなあ。なあ、みんな。」

【村人たち】
「んだ、んだ。」

【村人C】
「いや、おらは、やんだ。
岩をくずしたい、木切ったいするのは、けがしたい病人出たい
するような、危ねえ仕事なんだぞ。」

【村人たち】
「んだ、んだ。」

【ナレーション】
仁兵衛は必死で村人たちを説得しました。
そしてついに、みんなで力を合わせて堰を作ることに決ま
ったのです。

【仁兵衛】
「よし、村のために立派な堰を作るべ」

【村人たち】
「おう！」

仁兵衛堰物語



【ナレーション】
猿ヶ石川から水を引く工事が始まりました。
しかし工事が長く続くと、村人の何人かが仁兵衛のところへやってきました。

【村人C】
「仁兵衛さん、堰っこも大事だが、もう、こんな危ねえ仕事おらもうやんだ。」

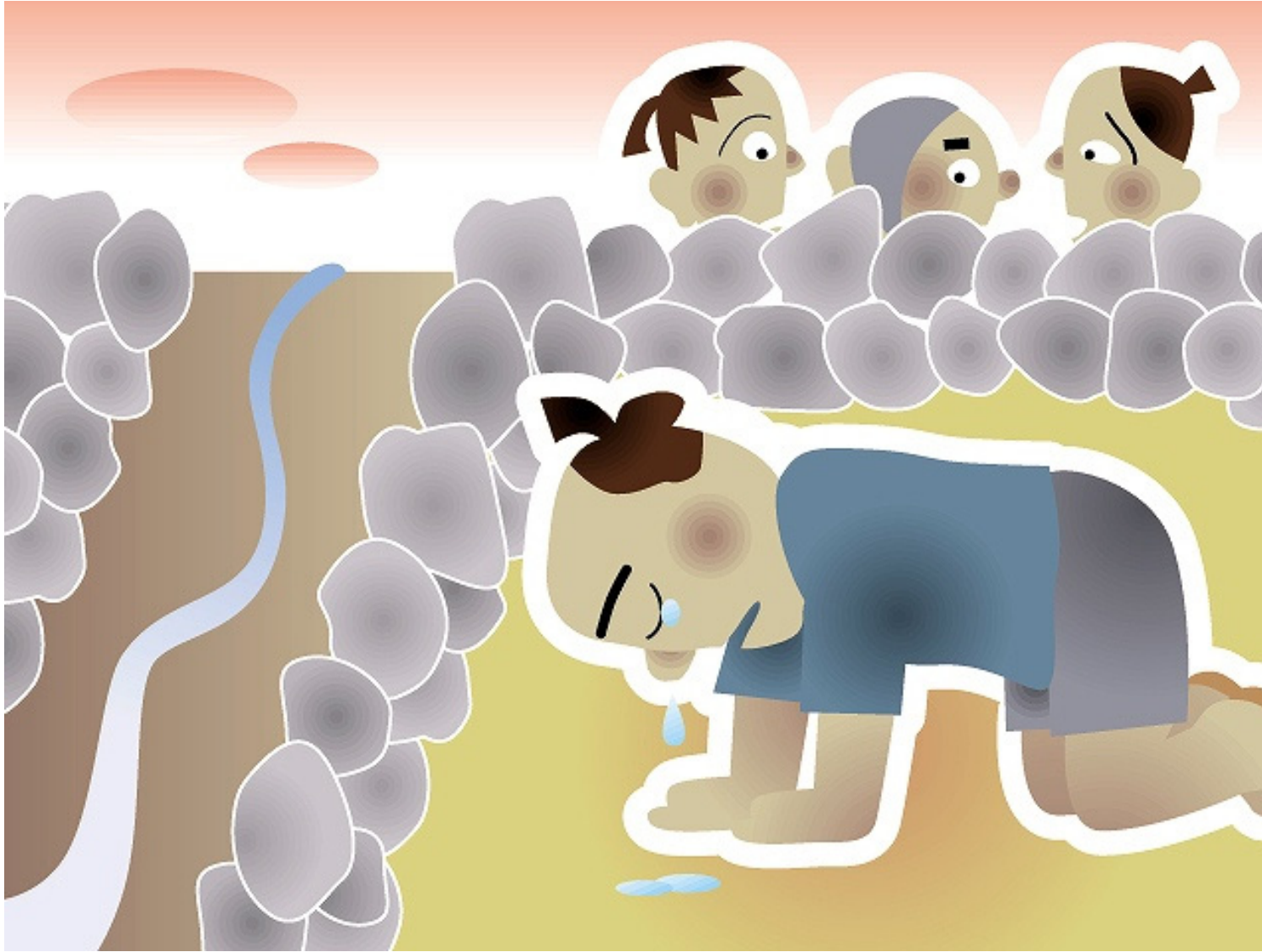
【村人D】
「んだんだ。おらの親父もケがっこしてしまった。」

【ナレーション】
仁兵衛はつらいのを我慢して言いました。

【仁兵衛】
「今は確かに大変だが、考えてみてけろ。
おら達の子供や孫の代になった時のごとを。」

【ナレーション】
仁兵衛の言葉を聞いて、頑張ろうと思う村人もいましたが、やはり働くのをやめてしまう人もいました。

仁兵衛堰物語



【ナレーション】
堰がようやく完成したのは、それから2年も後のことです。

【仁兵衛】
「ようし、水を流すぞー！」

【ナレーション】
ところが、おどろいたことに流れてきた水は千ヨロ千ヨロとわずかばかりでした。

【村人A】
「何だってよ！
こんじゃ田んぼさ水ひけねべ。」

【村人B】
「ちくしょう、今まで苦勞して作ったのに。」

【ナレーション】
仁兵衛は村人に対してすまない気持ちでいっぱいでした。
水の流れを良くするには、また1年以上も工事をしなければならなかったのです。

仁兵衛堰物語



【ナレーション】
がっかりしている仁兵衛を見て、妻が声をかけました。

【妻】
「あんだ、あきらめずに最後までやるべ。
村の人たちだって、きっとわがってくれっぺじゃ。」

【ナレーション】
やがて2人のもとへ村人が集まって来ました。

【村人A】
「仁兵衛さん、そったに落ち込むこたあねえぞ。」

【村人B】
「そんだ。
明日からまた工事に取りかかるべえ。」

【ナレーション】
そんな仁兵衛たちを、遠くからこっそり見ていた村人がつぶやきました。

【村人C】
「ほんとに水がきたんだ。
できっこねーと思ってらったのに。」

仁兵衛堰物語



【ナレーション】
再び始まった工事は、手伝ってくれる人も少なく全く進みませんでした。

が、そんな時。

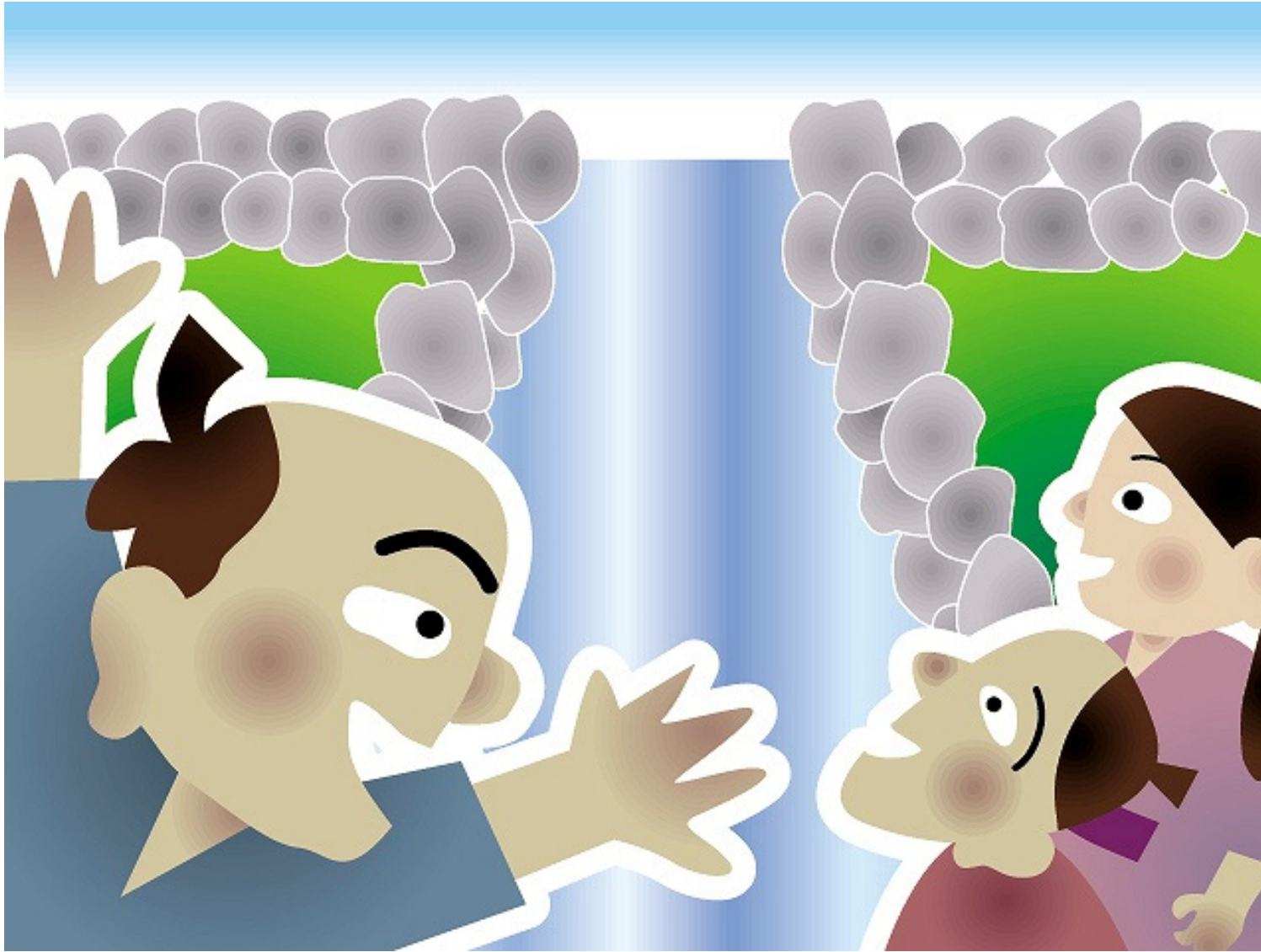
【村人たち】
「仁兵衛さあん、仁兵衛さあん！」

【ナレーション】
集まってきたのは、あの日仁兵衛たちを遠くから見ていた村人です。

それは工事を途中でやめていった人たちでした。

【村人C】
「仁兵衛さん、みんな、本当にすまなかった。
また手伝わせてけろ。
一緒に堰っこを作らせてけろ。」

仁兵衛堰物語



【ナレーション】
それから徐々に人も増え、1年後ついに堰は完成しました。
水はどんどん流れ、あちこちからバンザイと歓声があがりました。

【村人A】
「水が来たぞー！
これで米っこが、いっぺ取れるぞ！」

【村人B】
「仁兵衛さん、本当に良かったなあ。」

【仁兵衛】
「みんな、今日はお祭りだあ！」

仁兵衛堰物語



【ナレーション】

仁兵衛は完成した堰に舟を浮かべ、村人に笑顔で送られながら堰を下って行きました。

こうして3年をかけて堰が完成した時、工事前に7つあった仁兵衛の蔵は2つしか残っていませんでした。

しかし、堰ができたおかげで、更木村では米が今までの二倍とれるようになりました。

その後、この堰は「仁兵衛堰」と呼ばれ、今でも大切に守りつがれています。

おしまい